

令和4年度 琴芝小学校コミュニティ・スクール
第2回 学校運営協議会

1 会長あいさつ（井上さん）

2 校長あいさつ

台風 大きな問題なし 運動場のサッカーゴール（運動場のみずはけが原因か）
行事 運動会 保護者に学校の様子を見てもらった
水泳 民営委員の協力のおかげで活動ができた
引き渡し訓練 災害等の際に保護者や自治会の協力のもとスムーズにできた
見守り（カーブミラー） 事故報告がなくなった
コロナ 昨年の経験から様々な活動が形を変えて実施できた
ICT 他行に比べても活動が多いと思われる
友達とのかかわりが減少 失敗の積み重ねが少ない 自己評価が低い（課題）
特別な支援が必要な児童の増加
→学校だけでなく家庭と相談しながらすすめていく
休日の過ごし方
→休日に頑張りすぎで学校で元気がない（家庭と学校との生活の仕方）
児童のソーシャルスキル
→人から言われてでなく自分で判断、話を最後まで聞くことができる
ボランティア クラスに入っただき助かっている

3 自己紹介

4 説明事項

1 学校評価アンケートについて（教頭）

1 学期末のアンケート

地域、保護者、教員 全体的に上昇

児童 厳しい評価

令和3年度に比べてプラスが少ない

運動 → 熱中症を考慮しても全体的に低い

児童の自己評価が下がってきている（昨年度比）

自己肯定感を向上させていく

→学力などがその推進力になっているのではないか

2 本校児童の学力・学習の状況について（教頭）

本年度6年生 国語、算数が全国、県の平均を下回る

平均よりも引くなった児童の割合が訳50%

国語 県平均以下 57%

算数 県平均以下 48%

→学力の底上げが顕著にみられる

国語

良い結果 漢字の書き取り、文や文章を整える

課題 複数の条件に沿った文章表現

改善点 → キーワードや文字制限など条件をつけて文章を書く
算数

良い結果 基礎的な計算や処理

課題 作図 示された作図の手順をもとに、図形を構成する

プログラミング的な思考は授業でICTを用いて取り組んでいるが
課題として掲示された場合に課題がある。

プログラムを書き直す → 正解率が良い

プログラム通りに作図する → 課題あり

割合 記述式の問題の正解率が低く、未回答の児童もいる。

学習の見通しを持たせる 視覚化

調べたことや考えたことをまとめるツール

ノートづくりを通して学びを深める

個別の学び・共同の学び グループ活動

学びの躰きを自己認知する ロイロノートで振り返りの視点をもたせる

①キーワードを使ったふりかえり

②わかったことを箇条書き

③次時につながる振り返り

④家庭学習の定着（てびきを参照）

様々な地域支援（ゲストティーチャーなど）

組織的な授業づくり

上宇部中学校校区 学校・地域連携カリキュラム（カラーコピーのもの）

地域連携と小中一貫を大事にしながら取り組んでいる

本校ではCSなどで児童につけさせたい力

表現力の向上 コミュニケーションを測る場づくり

児童の学びを活かす場 児童の自己肯定感、有用感の向上

上宇部中学校校長）

中学校では学力が二極化していて、上位のコブと下位のコブがある。

それぞれに対応が必要では？

教頭）琴芝小学校も同様 2つのコブが1つになってほしい（なりつつある）

基礎学力が必要な児童はICTを用いた対応（宿題など）

3 網紀保持にかかる研修計画、および報告

校長）今年度は管理職からだけでなく公務分掌に応じて各職員からも実施

不祥事のたびに管理職から実施

年度末にまたご意見をいただきたい

5 ミニ熟議「学力向上に向けた、地域教育資源の効果的活用」

宇部市内、琴芝、地域の教育者の協力が大切

教務主任）授業で児童とかかわるのは理科

月の動きなどは学校だけでは観察は難しい（時間的に難しい）

地域の方の協力で効果的な活動ができたらうれしい

井上会長) 外部の講師を招く場合、どのように呼ばれるのか?

教務主任) 博物館での出前授業で来ていただくか、宿泊学習などで星の観察をするなど

井上会長) 自己肯定感が下がることは学力低下につながっているのではないか

自己肯定感を高めるために、どのように対応しているか?

上宇部中学校校長) 生徒を琴芝の夏祭りに参加させていただいた。

生徒が活躍できる場づくり、仕掛けがありがたかった。

大人と同じ舞台に立てることも良かった

井上会長) 上宇部中学校の生徒は去年まではイベントに参加だけだったが

今年度は、企画に参加してもらった

自分たちで企画を考えることは有用感につながるのではないか

宇部市市民環境部の藤原さんは他にどのような方法をご存じですか?

藤原さん) 書道や絵画の先生に協力してもらう

地域の人は指導ができないが、ほめる

親では悪いほうに目が行きがちだが、高齢の方は良いほうに目に行く

子どもは、褒められ慣れていない?

しりとり パスをする児童が多い(瞬時に言葉が出てこない)

翌年は事前にしりとりをする宿題でパスをする児童が軽減

読書感想文

自分の言葉が出てこない(ネットから単語を拾ってくるのはうまい)

就職で自分の言葉で会社のことを語ることができない

言葉で表現することを活かす(穴埋め感想文)

答えがないような設問が効果的ではないか

井上会長) 期間を決めて、されていきましたか?

藤原さん) 1日だけです。書道の日など1日だけできめてやっています

活動の中で親になんでも確認していた児童もいた

井上会長) ふれあいセンターの講師の方が対応していた?

藤原さん) そうですね。教え方は先生にもよると思いますが・・・

上宇部中校長) ゴーゴーチャレンジクラブを立ち上げた

地域で児童生徒の宿題をみる

小学校に地域の方が集っておこなう。

長門市ではふれあいセンターで講師をするのであれば何か学校に還元する

地域と児童などの斜めの関係は大事

井上会長) 琴芝では夏休みお楽しみクラブ(センター)がありましたが、

児童の集まりがよくないし、受け入れ側の高齢化で厳しい

石原さん) 興味関心がマチマチ ものに集中させるのが難しい

1つのことに全体があつまるのは難しい 2つ3つのグループに分かれる

興味関心を持たせる方法が難儀 すべての子が同じことに集中するのは難しい

井上会長) 専科の先生の数は?

教頭) 本校は教務主任だけです

他校とまわって外国語で1人

校長) 教科担任は？

教頭) 5、6年で実施しております

校長) 5、6年の先生で交換は？

教頭) 難しいですね

井上) 困っていることは？

教頭) 細かく指導しようとしたときの授業の中での支援が欲しい

「人」が足りていないのが課題

コロナ禍で活動が減少 人とかかわりが大切

井上) 人員補充は可能ですか？

教頭) 難しいのが現状 (教頭、教務は空き時間がほぼない)

井上) 学校、大丈夫ですか？

教頭) ボランティアの方に低学年は入っていただいて対応しております。

時代の変化もある (家庭科の裁縫の授業の簡易化)

学びをいかしていきたい

しかし、多くの人数に来ていただくのは難しい

中田さん) 自己肯定感低くなっている

中学校では夏祭りの企画から参加し、有意義な活動ができた。

琴芝小学校の5、6年生でもできるのではないか

→自己肯定感の向上 コミュニケーション能力の向上

コロナ禍で様々な活動ができず、子ども同士がふれあう機会の減少

学校内でドッチビーや先ほどの絵画教室など児童がつながる活動を通して

コミュニケーション能力の向上

保護者も活動に参加すること

→子ども達に「君たちが、大事なんだよ」と伝えることも大事

6 その他

今年度の学校運営協議会

第3回 12月15日 ←上宇部中学校と同日のため要検討

第4回 2月21日

体育倉庫の建て替えについて

行事 人権教育参観日、持久走大会 コロナの状況をみながら判断

堀さん

本日はありがとうございました

学校の学力の課題 言葉を読むスピード、たくさん読むのがかけている世代

ネットの検索は単語 (文章ではない) →文章にふれる機会が減ってきている

中学校と小学校での違い 文章に触れる時間をふやす (大人と子ども、子ども同士)

大人とかかわる中で、耳で関わる機会 有用感、肯定だけでなく可能性

好きなことをする 関心がないものをつけない

たくさんの情報をふれあう → 必要な情報を取捨選択する (4つの力につながる)

もっと土日を含めたなかで言葉と接してほしい

増野さん

コミュニケーション、自己肯定感 琴芝だけの問題ではない

学校だけで解決できるものではない → なにかしら対応する必要がある

学校がやろうとしているから家庭や保護者も一緒にする

琴芝はどう実行するかを考える必要がある

鵜の島 学校をあげて地域の祭りに参加（祭りの日の日曜日を登校日にするなど）

藤山 ジーふの会 （保護者がいないのが欠点）

学校運営協議会の話し合いをどのように実現するか

自治体と学校のマッチング

藤山中「ヤング自治会」

委員の皆様へ

8つの取り組みについて評価をしてほしい

副会長あいさつ（中田さん）

地域の方、教職員の方々が一生懸命に対応させていただいている

学童も子どもが喜んでいる

地域も含めて子どものことを見守ってほしい